



ノーミス 300 点満点で馬術を終え、5 年ぶりの全日本優勝に輝いた山中3曹

岩元3曹はスタートから飛ばし2周目で先頭を走る三口 3尉を抜きトップへ。そのまま1位でゴールし、この時点 で総合得点は 1175 点、2位の小野選手との点差は5点、 3位の三口3尉との点差はわずか9点と僅差だ。

最終種目の馬術では岩元3曹は286点で終え、総合2位 の小野選手(警視庁)に2点差の1461点で勝利し優勝を

試合後岩元3曹は、「3年後の東京に照準を合わせ一年 間トレーニングを重ねてきた。今年はナショナルチーム入 りに向けたとても重要なシーズンだった。何としても勝ち たいという思いで臨んだ。レーザーランのスタートでは トップの三口3尉との差は 13 秒で『行ける』と自然と気 合いも入り、集中してスタートラインに立つことができた。 勝ちにこだわった試合だったので、優勝できて本当に良 かった。今後は世界で通用する選手になりたい。」と語った。

女子の音はフェンシング、続く水泳をサルカ田美呼降土長が1位で 共に内田美咲陸士長が1位で

終え、ここまでの得点は内田士長が554点、追う山中詩乃3等陸曹は499点でその差は55点という展開となった。山中3曹は、2種目を 終えた時点で総合7位と出遅れ、次の競技であるレーザーランにおける内田士長とのスタート差は55秒となった。

スタートから快調に飛ばし順位を上げていく山中3曹は、トップの内田士長との差を徐々に詰め3回目の射撃で遂に内田士長を捉えた。

先に射撃を終えトラックへ飛び出したのは山中3曹。そのまま走り抜 き 12 分 34 秒、見事トップでゴールし、総合得点で内田士長に 22 点 差をつけ1位に浮上した。翌日の馬術競技で『どれだけ集中できるか』 に勝負は懸かった。

馬術競技を先に行った内田士長の 281 点に対し、最終競技者の山 中3曹は制限時間内に全ての障害をクリア、見事にノーミス 300 点 満点で終え堂々の全日本優勝を手にした。

試合を終えた山中3曹は、「今シーズンは人として競技者として、 一回りもふた回りも成長を感じることができた。 競技を始めて8年目、 『目に見える結果』を残したい、と臨んだシーズンでもあった。昨年 全日本チャンピオンの島津3曹が怪我により欠場したことで『体育学 校のエースとして自分が勝たなければ』というプレッシャーも多少は 感じていたが、冷静に集中することができた。今後は世界で勝てる強 さを身につけ、さらに成長できるよう頑張りたい。」と抱負を語った。



平成28年4月に「スーパー高校生」として入隊の内田士長(右)は、 水泳、フェンシングを共に1位で通過。 競技歴2年だが、昨年の全日本4位、今年は準優勝と順位を上げている。

